



青峰学園進路だより

令和8年7月17日
東京都立青峰学園校長
田村 貴代美
文責 細川 信之

青峰学園だよりが毎月管理職から発行されている。7月号は、就業技術科の小熊副校長先生の記事である。「生きることは学ぶこと」というタイトルで、副校長先生からの視点で語りかけられた内容であった。記事の冒頭にあるように、高等部の生徒は現場実習が真っ盛りである。現場での取り組みや、感じたことについて、進路指導部専任の立場から記載する。

先日、2年生の現場実習の振り返りに立ち会う機会があった。1週間の現場実習最終日に、実習先企業の担当者と学校の教員と本人が集まって、実習で学んだことやこれからの課題について話した。企業現場での態度や言葉遣い、コミュニケーション力が試されるので、大抵この話し合いの場は本人にとっても教員にとっても耳に痛いことが多い。ところが、その日は違っていた。その生徒は、初日に教わった内容について項目別にメモを見ながら家で清書し、次の日の出勤後に、メモを見てイメージトレーニングしていたそうである。担当者からの問いかけに、「今日の業務に活かしたいから」と語ったそうだ。「さすが青峰ですね」という担当者からの言葉がうれしかった。

一方で、実習に遅刻したり、疲れて作業中に寝てしまったり、途中でリタイヤしてしまう生徒もいる。会社からの評価に落ち込んでしまう生徒もいる。結果を前向きに捉え日々の学校生活に活かしていくように教員も言葉掛けをしていくが、ここは是非、御家庭でも学校生活や実習に積極的に取り組めるよう声掛けなどで御協力をお願いしたい。

また東京都では、卒業後3年間は学校が関わっていくという方針がある。青峰学園はバスケットボール部や伝統文化部、パソコン部などの卒業生が学校に来ることが多い。卒業後も学校と繋がって、一緒に活動することで共に学んでいる場面が多く見られる。また何年か前から、社会で活躍している卒業生から「簿記」を教えてほしいという相談が多くなってきた。その都度対応してきたが、昨年度から講習会として現役生も対象に加えた。3年生が卒業前に、日商簿記の3級に合格したことは報告したとおりである。また、3級合格者の中から2級に合格した卒業生も今年度誕生し、「青峰だより」の「教師は学び方を学ばせるべきだ」に繋がる。

今年度も9月から簿記講習会を予定している。現役の主な対象は高等部3年生であるが、2年生の希望者も大歓迎である。難しい内容であるので、根気よく何回も挑戦してほしい。保護者の方も聴講生として大歓迎である。

<6月5日実施 第1回進路学習会アンケートより>

進路学習会に御参加いただきありがとうございます。アンケートの質問にお答えします。家庭で見つけた求人も、その職場の雰囲気や雇用されている障害者のタイプ、配属の仕方などは調べて頂けるのでしょうか?と御質問いただきました。青峰学園は、生徒がより良い就職先を選択できるように、御家庭とも協力してまいりますので、気になる企業などがありましたら、担任を通じて進路指導部にぜひお知らせください。もちろん生徒本人からのこうした相談にも応じますし、生徒自身からこの企業に行ってみたくと自分から発信してくれることを期待しています。今後はもっと求人票の見方や検索方法なども、進路指導の中で扱っていきます。

貴重な御意見をいただきありがとうございました。9月に「進路サロン」が開室予定です。今後もこうした質問・相談をお待ちしています。